



馬 耳 東 風

日本の国土のおよそ4分の3は山地といわれており、国土地理院の2万5000分1地形図には16,667の山が載っているという。その中から随筆家・登山家である深田久弥氏が山の品格、山の歴史、個性のある山等の基準で1964年に選んだ100座が日本百名山である。登山を趣味にする人はこの百名山の完登に憧れる。かくいう私も一時は志したが、20座で頓挫してしまった。

2014年、プロアドベンチャーレーサーである田中陽希氏が南は屋久島の宮之浦岳から北は利尻島の利尻岳までを一切の乗り物を使わず人力のみで、百名山をひと筆書きで登るという快挙を達成した。4つの海峡はシーカヤックを漕ぎ、陸上は1日に40～60kmを歩き時には走り、それぞれの登山口からはガイドブックにのっている所要時間の半分以下で登頂するという超人的なペースで進み、209日間でこの旅を終えている。NHK-BSで「グレートトラバース」として放映されたので見られた人も多いかと思う。翌年には、深田氏のファン組織「深田クラブ」が選定した日本二百名山のうち日本百名山を除く100座をひと筆書きで登った。そして次の挑戦が日本三百名山で2018年から2021年かけての2年8カ月の旅であった。日本三百名山とは、日本山岳会の「山日記」編集メンバーによって1978年に選定された200座の山で、それに深田久弥の百名山を加えて300としているものである。この300座を自分の力だけで歩いて登ったわ

けで、ただただ驚くばかりである。

通常の交通機関を使ってすでに百名山を登った方は多くいると思うが、陽希君に刺激され二百名山、三百名山に挑戦している方もいることと思う。一方、登山の楽しみ方はさまざまで、同じ山を千回登るという目標を立てている方もいるし、自宅から頂上まで歩いて登るという方もいる。今夏、私は富士山山頂を目指し、富士急線の富士山駅から歩いてみた。吉田口登山道の一合目まで3時間余分に歩くことになったが、陽希君に少しでも近づきたいとの思いである。39年前、71歳の父と5合目から出発し、久須志神社が立つ吉田口・須走口山頂(3,715m)まで登ったが、雨天のため最高峰である剣ヶ峰(3,776m)の登頂を断念した。今では当時の父より3歳年を重ねたが、山好きであった父の想いを背負い、剣ヶ峰登頂とお鉢巡りを果たした。

富士山は日本一高い山でその標高は3,776mであることは周知の事実である。ところが、久須志神社の社殿前には「富士山頂上浅間大社奥宮」と書かれた石碑が立っているためか、ここを山頂として引き返す人が多い。似たような例が富山県の立山にもある。深田氏の日本百名山の本やガイドブックには立山の標高は3,015mと記載されている。しかし、雄山神社の社務所が立つ雄山(3,003m)を立山の山頂と見なし、最高峰の大汝山(3,015m)まで行く人は少ない。「そこは通称の山頂ですよ」とまではいわないが、それぞれの山の最高地点まで登りたいものである。(平)